

(10)教職課程科目

5WW101 英語科教育法ⅠA

【到達目標】

- ・教室で教育活動を展開するのに必要な指導法と技術を身につける。
- ・生徒の能力を十分に引き出すには、どのような言語活動がよいかを理解する。
- ・学習指導要領の内容を踏まえた教材の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を目指す。

【概要】 中学校や高等学校の英語教師が知っていなければならない英語知識の体系化を踏まえて、教室で教育活動を展開するのに必要な指導法と技術を学び、その上で教材研究や学習指導案を作成して、模擬授業の場で実践を試みる。特に以下のことに重点を置く。
①中学校や高等学校の英語の授業において生徒の能力を十分に引き出すための言語活動。
②実際に授業で英語の指導をする際に効果的な指導法。③有機的に相互に関連した教材の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施。

5WW102 英語科教育法ⅠB

【到達目標】

- ・主要な外国語教授法の特色を考察・検討し、それぞれの長所と短所を理解する。
- ・主要な教授法を踏まえた教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を行い、それぞれの教授法を身につける。

【概要】 これまでに提案された主要な外国語教授法を概観し、それぞれの特色を考察・検討する。これらの教授法を理解した上で、教授法を念頭に置いた教材研究や学習指導案の作成をして模擬授業に臨むことで教員として教授法を実践する。更に、生徒の役にもなり、その授業を受けることによって、個々の教授法を体験的に習得し、その長所と短所を考察する。この活動を通して、中学校や高等学校における効果的な望ましい外国語（英語）の教授法を探る。

5WW103 英語科教育法ⅡA

【到達目標】

- ・中学校や高等学校における「英語の4技能を統合した授業」の理念と目的を知る。
- ・実際の教科書や英語の4技能を統合した授業の模様を写したビデオの分析等を通して英語の4技能を統合した授業が具体的にどのように展開されているかを理解する。
- ・英語の4技能を統合した授業実践のためのさまざまな指導法を学び、教材研究、学習指導案作成、模擬授業実施を通して英語の4技能を統合した授業を実践する資質能力を養う。

【概要】 英語の4技能を統合した授業の実践のために必要な知識や実践力を修得させる。そのために、学習指導要領の理解を深め、教科書や授業ビデオの分析により英語の4技能を統合した授業の特徴を把握する。さらに、実際に教科書や副教材等の教材研究をした上で、学習指導案を作成後、模擬授業を行い、自己評価やピア・フィードバックによる振り返りを行うことで、英語の4技能を統合した授業を実践する資質能力を体得する。

5WW104 英語科教育法ⅡB

【到達目標】

- ・中学校や高等学校における「英語で行う英語の授業」の理念と目的を知る。
- ・実際の教科書や英語で行う英語の授業の様態を写したビデオの分析等を通して、英語で行う英語の授業が具体的にどのように展開されているかを理解する。
- ・英語で行う英語の授業実践のためのさまざまな指導法を学び、教材の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して英語で行う英語の授業を実践する資質能力を養う。

【概要】 英語で行う英語の授業の実践のために必要な知識や実践力を修得させる。そのために、学習指導要領の理解を深め、教科書や授業ビデオの分析により英語で行う英語の授業の特徴を把握する。さらに、実際に学習指導案を作成後、英語で行う英語の授業の模擬授業を行い、自己評価やピア・フィードバックによる振り返りを行うことで、英語で行う英語の授業を実践する資質能力を体得する。

3WW111 宗教科教育法ⅠA

【到達目標】

- ・学習指導要領の理念をふまえ宗教教育の意義について理解を深める。
- ・日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要とされるキリスト教の基礎知識を身につける。
- ・キリスト教の正典である旧・新約聖書の内容を理解し、その上でキリスト教史、キリスト教倫理・キリスト教思想の特質を理解する。
- ・聖書の内容とキリスト教の特質を実際の授業としてどのように展開できるかを考察、研究する力を養う。

【概要】 日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要とされるキリスト教の基礎を身につけることを目標とする。キリスト教の世界観、旧約聖書と新約聖書の内容と相互の関係、イエス・キリストの存在の意味、教会史、キリスト教倫理などの要点を確認し、その上で、それらを聖書科の授業としてどのように展開し、指導するのかを考察する。

3WW112 宗教科教育法ⅠB

【到達目標】

- ・日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要とされる日本の宗教史に関する基礎的知識を身につける。
- ・日本人の宗教観について理解、考察する力を養う。
- ・日本におけるキリスト教教育の歴史を辿ることを通して、キリスト教主義学校が日本の教育に果たした役割を歴史的に考察するとともに現状と課題を理解する。

【概要】 日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要な、日本の宗教史に関する知識・理解と現代日本人の宗教観について考察することを目標とする。それらに関する理解を深めるとともに、日本社会におけるキリスト教教育の歴史をたどることを通して、キリスト教主義学校の日本史上における役割、現状と課題、宗教科教員に求められていることについて考察する。

3WW113 宗教科教育法ⅡA

【到達目標】

- ・中学校における宗教科（聖書科）の授業の組み立て方を習得する。
- ・学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、教材の選び方などを習得する。
- ・中学校における聖書科の授業で取り上げられる項目について模擬授業を行い、授業の方法を習得する。
- ・中学校の対象年齢に即した情報機器及び教材の活用（選び方、用い方）を実際に使用されているものを参考にしながら習得する。

【概要】 中学校における宗教科（聖書科）授業をどのように組み立て、展開するのかを学ぶことを目標とする。学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、視聴覚教材を含めた教材の選び方について、実際に使用されているものを参考にしながら実践に即して研究していく。キリスト教主義の中学校において、聖書科の授業で取り上げられる項目について研究した後、それらの中からいくつかのテーマを選んで模擬授業を行い、授業の方法を考察する。

3WW114 宗教科教育法ⅡB

【到達目標】

- ・高等学校における宗教科（聖書科）の授業の組み立て方を習得する。
- ・学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、教材の選び方を習得する。
- ・高等学校における聖書科の授業で取り上げられる項目について模擬授業を行い、授業の方法を習得する。
- ・高等学校の対象年齢に即した情報機器及び教材の活用（選び方、用い方）を実際に使用されているものを参考にしながら習得する。

【概要】 高等学校の宗教科（聖書科）授業をどのように組み立て、展開するのかを学ぶことを目標とする。学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、視聴覚教材を含めた教材の選び方と用い方を、実際に使用されているものを参考にしながら実践に即して研究していく。キリスト教主義の高等学校において、聖書科の授業で取り上げられる項目について研究した後、それらの中からいくつかのテーマを選んで模擬授業を行い、授業の方法を考察する。

3WW121 国語科教育法ⅠA

【到達目標】

- ・国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識とアクティブ・ラーニングなどを取り入れた新しい授業方法を習得する。
- ・古典（古文・漢文）の定番教材を用いて、文法や有識故実の指導法から、ものの見方・感じ方・考え方を古典作品から読み取り、味わうための指導法の理論を身につける。
- ・中学・高校における新たな古典教育法、具体的には授業案の開発を目指す。

【概要】 国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識、ディベート、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた新しい授業方法を習得することを目標とする。古典（古文・漢文）の定番教材を用いて、文法や有識故実の指導法から、ものの見方・感じ方・考え方を古典作品から読み取り、味わうための指導法の理論と実際を検討する。

3WW122 国語科教育法ⅠB

【到達目標】

- ・国語科で育成を目指す言語能力と思考力の実質を学習指導要領に即して的確に理解し、国語科の授業実践に反映させる視点を習得する。
- ・国語科の学習指導理論と教材研究の方法を習得する。
- ・アクティブラーニングの視点や ICT 機器を活用した授業づくりといった授業方法を的確に理解する。

【概要】 国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識、ディベートなどを取り入れた新しい授業方法を習得することを目標とする。社会の変化の中で、言語能力と思考力の育成が国語科に一層求められている現状を考察し、その上で、道德教育や文学的感性の教育に流れがちであった国語科教育を、現代文の定番教材（『走れメロス』『故郷』など）を用いて検討し、これらの作品の教材としての新しい可能性についても考える。

3WW123 国語科教育法Ⅱ A

【到達目標】

- ・古文教材と漢文教材について、中学生・高校生それぞれに対する授業を展開するにあたり、教材研究、授業展開計画、授業実践の方法、試験作成、評価方法を習得する。
- ・さらにこれらの探求をとおして、授業の内容と方法を適切に組み立てることができ、学習指導要領に示れている国語科(おもに古典)の目標を達成できるようにする。

【概要】 学校現場と生徒の今をふまえて、教育と学校のあり方を探りつつ、それらをもとに、古典教育の意味と方法を、中学・高校それぞれの場合について考察することを目標とする。教科書の教材を用いて、学生が模擬授業を行う。その際、意味調べ、文法、口語訳だけで終わってしまうことがないよう、ことばのニュアンスや古典の基礎知識、時代背景、文学史、作中人物の心情などに注意し、古典を身近に感じられる授業を行えるようにする。学生間の討論を重ねることで、発表者の学生がよりよい授業を作り上げて行くよう心がける。

3WW124 国語科教育法Ⅱ B

【到達目標】

- ・文学教材と評論教材について、中学生・高校生それぞれに対する授業を展開するにあたり、教材研究、授業展開計画、授業実践の方法、試験作成、評価方法を習得する。
- ・さらにこれらの探求をとおして授業の内容と方法を適切に組み立てることができ、学習指導要領に示されている国語科(おもに現代文)の目標を達成できるようにする。

【概要】 学校現場と生徒の今をふまえて、教育と学校のあり方を探りつつ、それらをもとに、国語教育(現代文の読解と表現)の意味と方法を、中学・高校それぞれの場合について考察することを目標とする。教科書の教材を用いて、学生が模擬授業を行う。その際、一つのジャンルに偏らないよう、随想・小説・評論・詩や実用的文章に至るまで幅広く扱い、話すこと・聞くことの言語活動も、積極的に取り入れるようにする。学生間の討論を重ねることで、発表者の学生がよりよい授業を作り上げて行くよう心がける。国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識、ディベートやコンピュータによる検索などを取り入れた新しい授業方法を習得することを目標とする。

3WW131 社会・地理歴史科教育法Ⅰ

【到達目標】

- ・社会科・地理歴史科の歴史的変遷(学習指導要領の変遷)を理解する。
- ・学習指導要領の読み方を学び、指導要領の理念と方法を理解する。
- ・教科書をはじめとする教材の分析と構成の方法を身につける。
- ・単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)の方法を習得する。

【概要】 中学社会科(地理的分野・歴史的分野)と高校地理歴史科の授業を作るうえで必

要な基礎的知識と理解を習得することを目標とする。社会科・地理歴史科の歴史の変遷を学習指導要領に即して学習するとともに、指導要領の読み方を学ぶ。教科書をもとにして、教材の分析と構成の方法を学ぶ。すぐれた授業実践例をビデオなども用いながら検討する。単元の指導過程や授業構成（導入・展開・まとめ）をグループごとに作成・発表し、全員で討論・検討する。

3WW132 社会・地理歴史科教育法Ⅱ

【到達目標】

- ・学習指導要領に示されている社会科（地・歴）・地歴科の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。
- ・授業を効果的に展開できるような教材を適切に選び開発することができる。
- ・学習指導案を正しく作成することができる。
- ・実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。
- ・他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいに基づくアクティブ・ラーニングをおこなうことができる。

【概要】 中学社会科（地理的分野・歴史的分野）と高校地理歴史科の授業を実践するために必要な技術・視点を身につけ、すべての受講者が、社会科・地理歴史科の授業を実際につくることができるようになることを目標とする。実際の教育現場での事例の紹介、教科書や具体的実物の分析と教材化の試み、学習指導案の作成、受講者全員による模擬授業の実施などを実践的に行う。模擬授業に際しては、授業者の授業に対する討論やリアクションペーパーの作成を全員で行うアクティブ・ラーニングを実施し、授業者はそれらを踏まえて反省レポートを作成することとする。

3WW133 社会・公民科教育法Ⅰ

【到達目標】

- ・社会科・公民科の歴史の変遷（学習指導要領の変遷）を理解する。
- ・学習指導要領の読み方を学び、指導要領の理念と方法を理解する。
- ・教科書をはじめとする教材の分析と構成の方法を身につける。
- ・単元の指導過程や授業構成（導入・展開・まとめ）の方法を習得する。

【概要】 中学社会科（公民的分野）と高校公民科の授業を作るうえで必要な基礎的知識と理解を習得することを目標とする。社会科・公民科の歴史の変遷を学習指導要領に即して学習するとともに、指導要領の読み方を学ぶ。教科書をもとにして、教材の分析と構成の方法を学ぶ。すぐれた授業実践例を検討する。単元の指導過程や授業構成（導入・展開・まとめ）をグループごとに作成・発表し、全員で討論・検討する。

3WW134 社会・公民科教育法Ⅱ

【到達目標】

- ・学習指導要領に示されている社会科（公民）・公民科の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。
- ・授業を効果的に展開できるような教材を適切に選び開発することができる。
- ・学習指導案を正しく作成することができる。
- ・実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。
- ・他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいに基づくアクティブ・ラーニングをおこなうことができる。

【概要】 中学社会科（公民的分野）と高校公民科の授業を実践するために必要な技術・視点を身につけ、すべての受講者が、社会科・公民科の授業を実際につくることができるようになることを目標とする。実際の教育現場での事例の紹介、教科書や具体的実物の分析と教材化の試み、学習指導案の作成、受講者全員による模擬授業の実施などを実践的に行う。模擬授業に際しては、授業者の授業に対する討論やリアクションペーパーの作成を全員で行うアクティブ・ラーニングを実施し、授業者はそれらを踏まえて反省レポートを作成することとする。

3WW141 情報科教育法Ⅰ**【到達目標】**

- ・情報科教育における基礎概念を学び、身につける。
- ・情報科教育における基本的な教育内容を学び、理解する。

【概要】 情報科の授業を担当するに当たって必要なことから、特にその基礎となる概念や基本的な教育内容を学習し、また、情報教育で生徒ひとりひとりの個性を活かし、その力を伸ばすにはどのような教育が必要か学ぶことを目標とする。具体的な内容としては、学習指導要領の変遷、および後期中等教育における情報科の位置づけ、情報教育で扱う学習内容の整理とその評価を学習する。また、他教科との協力や関連なども考察し、コミュニケーションやプレゼンテーションの役割、情報発信における倫理教育などを学習する。

3WW142 情報科教育法Ⅱ**【到達目標】**

- ・実践教育で活用できる指導方法を学び、情報科の授業で必要となる応用力を高める。
- ・模擬授業を通じて授業能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

【概要】 情報科の授業を担当するに当たって必要なことから、特に学校現場において、情報教育を実践するときに必要な応用力を養成し、また学校現場で活用できる情報教育の指導方法を検討し、実際に使える力を養うことを目標とする。具体的な内容としては、情報をメディアリテラシーの視点から分析し、高度情報通信社会の特徴や、その社会の「光」と「影」の認識、そこに潜む情報格差などについて考える。さらに、総合実習として教育

実習に必要な授業能力やプレゼンテーション能力を養う。そのために、実際に使われている授業教材などを積極的に研究する。また、情報社会におけるビッグデータやプログラミング的思考についても学ぶ。

3WW151 数学科教育法ⅠA

【到達目標】

- ・ 中学校学習指導要領における各領域の目標と内容を理解する。
- ・ 中学校数学科における教材と指導法について理解する。

【概要】 平成29年3月公示の学習指導要領で資質・能力の三本柱として整理されている数学科の目標と、各領域に関わる教材及び指導法についての理解を深めることを目標とする。具体的には、『中学校学習指導要領解説 数学編』をもとに、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4領域と〔数学的活動〕に関わり、内容の構成と取扱いについて説明し、理解を深める。

3WW152 数学科教育法ⅠB

【到達目標】

- ・ 高等学校学習指導要領について学び、基本概念を理解する。
- ・ 高等学校の数学科における各科目の構成を学び、その役割と目標を理解する。
- ・ 高等学校数学科における教材と指導法について理解する。

【概要】 改訂される学習指導要領で資質・能力の三本柱として整理されている数学科の目標について、高等学校数学科における学びの本質と学習指導の過程を踏まえて、数学の各領域に関わる教材及び指導法についての理解を深めることを目標とする。また、高等学校数学科における〔課題学習〕やテクノロジーを利活用といった、活用型数学教材の取扱いについても取り上げる。

3WW153 数学科教育法ⅡA

【到達目標】

- ・ 実際の授業を視聴し、効果的な授業運営について理解する。
- ・ 模擬授業を行い、実践的な数学科目の教育力を身につける。
- ・ 中学校数学科もしくは高等学校数学科教師としての実践的授業力を身に付ける。

【概要】 数学教育を実践的に学ぶことを目標とする。数学のすぐれた授業実践を視聴し、それらの授業のよさについて全員で話し合い、さらに、授業開発、模擬授業を実施する。また、教育用デジタルテクノロジーを利活用した授業を行う能力を身に付けるために、実際にそれらの使用法、授業での活用法などについて、実習・実践を行う。おもに、中学校数学科の「数と式」「関数」の領域とそれに関連する内容に力点を置く。

3WW154 数学科教育法ⅡB

【到達目標】

- ・実際の授業を視聴し、効果的な授業運営について理解する。
- ・模擬授業を行い、実践的な数学科目の教育力を身につける。
- ・中学校数学科もしくは高等学校数学科教師としての実践的授業力を身に付ける。

【概要】 数学教育を実践的に学ぶことを目標とする。数学のすぐれた授業実践を視聴し、それらの授業のよさについて全員で話し合い、さらに、授業開発、模擬授業を実施する。また、教育用デジタルテクノロジーを活用した授業を行う能力を身に付けるために、実際にそれらの使用法、授業での活用法などについて、実習・実践を行う。おもに、中学校数学科の「図形」「データの活用」の領域とそれに関連する内容に力点を置く。

3WW201 教育原論

【到達目標】

- ・教育についての原理的な考え方や概念を理解する。
- ・教育の理念・思想・歴史を理解し、教育の本質に関わる「問いの仕方」を理解する。
- ・これらの基礎を理解した上で、現在の教育現象や教育問題を論理的に分析し記述できる力を身につける。

【概要】 教育に関する歴史と思想を概観することで教育の本質と理念を探り、現代社会における教育現象や教育問題に対する新たな視点や視角を得、理解を深めることができるようになることを目標とする。日本と西欧の教育史や様々な教育思潮の歴史の変遷をたどることで、近代公教育の理念と原則や、国家と教育の関係に関わる多様な捉え方を理解する。さらにそうした理解を踏まえて、今日の具体的な教育問題の事例に触れながら、それらを表層的にではなく本源的に分析・考察するための基礎的知識・理解と方法を示す。

3WW202 教職論

【到達目標】

- ・教職の意義及び教員の役割、教員養成の歴史、今日の教育の現状を知る。
- ・自主的、自発的な学習が促されるような教育課程・授業の作り方を知る。
- ・特別活動・生徒指導・教育相談など教科外指導の概要を知る。
- ・学級経営・学校経営・校務分掌のあり方を知る。
- ・教員の服務規程と研修のあり方を知る。
- ・教職に就くための方法に関する情報を積極的に収集し、自らの教職へ向けての進路を意欲的に切り開いていく。
- ・チーム学校運営への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

【概要】 教職を志す学生を対象に、教員の役割と職務内容の学習・考察を通して、教職の

意義に対する理解を深めることを目標とする。特に、今日の学校教育がおかれている現状と課題、チーム学校運営への対応など、自主的、自発的な学習が促されるような授業計画および内容、特別活動・生徒指導・教育相談など教科外指導の概要、学級経営・学校経営・校務分掌、教員の服務規程と研修のあり方といった項目を中心に講義し、教員の多様な仕事を知ることで、教職の意義に対する各自の考えを深める。また、教職に就くために必要な情報や機会の提供も随時行い、教師になるためのキャリア構築を学生自らが遂行できるように支援する。

3WW203 教育社会学

【到達目標】

- ・教育の組織や制度や経営の歴史と現在を理解するための教育学的小および教育社会学的な概念を理解する。
- ・教育学的小および教育社会学的な概念を用いて教育問題を発見し、分析し、記述できる力を習得する。
- ・学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。
- ・学校管理の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

【概要】 家族や地域社会や学校などにおける教育を、組織や制度や経営などの観点から捉え、それぞれの社会的な役割と機能および相互の構造的な連関を考察する。主として戦後日本の教育行政と学校経営の理念と組織・制度の歴史と現在、教育改革の動向、とくに近年、取り組まれている学校と地域との連携や学校安全への様々な対応の成果と課題などを扱う。また、近代学校の役割と機能について、近代社会の原理とされる競争の原理との関連で捉え、ひとり一人の成長・発達と社会統制・存続の両面から理解できるよう、内外の教育を参照しながら考察し、併せて、教育問題への多面的なアプローチの仕方を習得する。

3WW204 教育心理学

【到達目標】

- ・発達と教育に求められる心理学の基礎的知識を身につける。
- ・実際に学校内外の教育現場で生ずる様々な心理的諸問題を概観する。
- ・子どもの心の発達についての教育心理学分野の様々な概念や理論についての知識を深め、学校教育における教師の役割を問い直す。

【概要】 子どもの発達や学習、動機づけなどの教育に関わる心理学的なテーマについて学ぶ。学校内外の児童・生徒の成長を理解するために必要な教育心理学の基礎分野－発達、教授・学習、人格、社会性、測定・評価、思考・認知、臨床－を概観することによって、現代の教育現場における諸問題についても考える。また、現代社会の中で生じている教育

心理学的な諸問題について学び、対策と改善点を考察する。

3WW205 特別支援教育

【到達目標】

- ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする障害のある生徒の教育的ニーズを理解する。
- ・特別の支援を必要とする生徒のための教育課程と支援の方法を理解する。
- ・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の生活上の困難とチームとして学校が支援する必要性を理解する。

【概要】 通常の学級に在籍する様々な障害等があるために、適切な指導や支援を必要とする生徒の特性や発達について理解を深める。また、障害がなくとも特別の支援を必要とする生徒を把握し、一人一人の教育的ニーズに応え、学習や行動を支援するための方法および指導の在り方について理解を深める。

3WW206 教育課程論

【到達目標】

- ・教育課程の意義及び編成の方法に関する知識を習得し理解を深める。
- ・学習指導要領の意義と歴史に関する知識を習得し理解を深める。

【概要】 「教育課程の意義と編成の方法」に関する諸課題を学ぶことで、自らカリキュラムを創造していくことのできる自立した教員になるための基礎的な資質を培うことを目標とする。学習指導要領に即して次の点を取り上げる。①教育課程の役割・機能・意義を理解する、②教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する、③教科等横断的な視点に立つカリキュラム・マネジメントを理解する。

3WW302 道德教育の理論と方法

【到達目標】

- ・学校での道德教育の可能性と限界について理解を深める。
- ・道德教育の歴史と思想について基本的な理解が出来る。
- ・道德性の発達についての基本的な考え方を理解する。
- ・道德教育の実践について必要な知識と技術を身につける。

【概要】 道德教育の理論的背景に関する理解を深めるとともに、「道德の時間」の指導を行う上で必要な指導案の作成と指導方法に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。「道德性」に関する様々な議論・理論を整理し、道德教育の歴史的変遷と理論的背景を紹介する。ここでは、教育思想・哲学的アプローチと心理学的アプローチ（認知発達理論、役割取得理論など）を柱として構成する。次いで、具体的な道德指導実践の事例と指導案作成作業を通じて理論と授業実践の関連を検討する。

5WW303 総合的な学習（探求）の時間の指導法

【到達目標】

- ・総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
- ・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
- ・総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

【概要】 「総合的な学習の時間」の意義と原理、実践の蓄積を講義で理解し、学校現場でのカリキュラム的位置づけや組織的対応の在り方を知る。自己の学習体験から旧課程での実情や改善点を振り返る。その上で、直接指導を担当する場合を想定して、指導計画の作成、指導手段や指導形態、評価を各自で考え、相互に検討し、見落としがちな点に気づく。講義による伝授のほかに体験的学習も加えることによって、履修者は実践に向かうための要点や留意点、精神を自覚し、身に付ける。

3WW304 特別活動論

【到達目標】

- ・中学校・高等学校の特別活動の目標・内容について理解する
- ・中学校・高等学校の特別活動の指導法に関して基礎的な知識・技能を習得する
- ・「集団を通して、経験を通して学ぶ特別活動」をテーマとする

【概要】 特別活動は、集団活動を通して人間形成を行うという点で教育課程上不可欠な内容である。そこで本授業では中学校・高等学校教員を目指す学生に対して、特別活動の意義、目標、内容、方法等について体験的に理解させ、教員としての力量形成を図る。演習形式（模擬学級活動、班討議、模擬学校行事）を中心にし、講義で知識を補う。特別活動が自主的・実践的な活動であることから、本授業も経験を通して学ぶ視点を重視し、学生による参加・参画を促進して行う形式とする。

3WW305 生徒・進路指導論

【到達目標】

- ・生徒指導の教育課程上の位置付け、各教科等との関係、集団指導・個別指導の方法、生徒指導体制と教育相談体制のそれぞれ特徴を理解する。
- ・生徒指導に関わる校務分掌と組織的な取組みの意義、日常の生徒指導の在り方を理解したうえで、自己肯定感を高める指導方法を例示することができる。
- ・生徒指導関連法令、いじめ・不登校やインターネット・性に関する問題などへの対応の仕方を理解するとともに、児童虐待等の今日的な課題について専門家・関係機関との連携の在り方を例示することができる。
- ・進路指導の教育課程上の位置付け、組織的な指導体制や家庭・関係諸機関との連携の在

り方を理解したうえで、具体的な指導の在り方を例示することがでる。

- ・職業体験活動などのキャリア教育に関するカリキュラム・マネジメントの意義やガイダンスの機能を生かした指導の要点を理解する。
- ・生涯にわたるキャリア形成を見据えた自己評価の意義を理解したうえでポートフォリオの活用法を例示することができたり、キャリア・カウンセリングの基本を説明することができる。

【概要】 今日、生徒指導を論じるとき、枕詞でもあるかのように「いじめ」「不登校」「援助交際」「学級崩壊」という表現が繰り返される。しかし、はたしてこのような枕詞とともに語られる生徒指導論がこうした諸問題の分析と整合的に結びついているのであろうか。本講義では、徹底してこれらの諸問題にこだわり、そこから現代の生徒指導のあり方を問い直していきたい。また、生徒指導は「今」や「その場」に関わることのみを守備範囲とするのではない。未来の自分の姿を描くことが偏狭的な視野から子どもたちを解放する役割を担う。学習への動機を調達することにもつながる。こうした視点から、進路指導のあり方も問い直したい。

3WW306 教育相談

【到達目標】

- ・教育相談の基礎となる心理学理論とカウンセリングの姿勢・技法を習得する。
- ・学校教育に必要なカウンセリングマインドを身につける。
- ・学校で実践的に用いられるカウンセリングの実際についてロールプレイ、事例に関するディスカッションなどアクティブ・ラーニングを取り入れることによって体得し、教育実践に役立つ知識とスキルを体得する。
- ・教育相談に必要な基礎的なカウンセリングの知識を身につけるとともに、教師－生徒関係のあり方を洞察し、学校として組織的に対応する姿勢を身につける。

【概要】 不登校、いじめ、非行等の問題行動の背景にある諸問題について考察する。また、カウンセリングの基礎的な理論と技法を理解し、学校に不適応な生徒の理解と支援、保護者との連携を具体的に学ぶ。児童期から青年期への移行期にある子どもの問題行動の原因と社会的適応についての知識を習得し、どのような指導や援助が求められているのかを事例およびロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを取り入れることによって習得する。

3WW307 教育方法論（ICT の活用を含む）

【到達目標】

- ・教育の方法及び技術に関する知識を習得し理解を深める。
- ・情報機器及び教材の活用に関する知識と技術を身につける。

【概要】 「教育の方法と技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関する諸課題を学ぶことで、自ら教育方法を創造することができる教員になるための基礎的な資

質を培うことを目標とする。学習指導要領に即して次の点を取り上げる。①これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。②教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。③情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、それらを効果的に活用した学習指導や校務の推進を理解する。④生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な指導方法を身に付ける。

3WW401 教育実習事前事後指導

【到達目標】

- ・「事前指導」では、教育実習に必要な基礎的知識・技能や心構えを身に付ける。
- ・「事後指導」では、教育実習の成果を教師としての力量形成につなげる。

【概要】 教育実習に必要な知識・技能や心構えを身に付け、また、実習の成果を教師としての力量形成につなげることを目標とする。実習の前に、教師としての諸活動に必要な実地的な知識・技能（教育法規、教具、発声など）、あるいは心構えを学ぶ。実習終了後には、少人数のゼミ形式で、各自の報告と相互検討を行い、今度の課題を確認する。

3WW402 教育実習

【到達目標】

- ・教育実践の実習を行なうことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師のあり方等を実践的に習得し、それらの知識と記述を身につける。

【概要】 学校現場で、教員として必要な知識・技能を習得することを目標とする。3～4週間、中学あるいは高校の現場で教育実践の実習を行う。そこでは、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師のあり方等を実践的に習得する。

3WW403 教職実践演習（中・高）

【到達目標】

- ・教育基本法をふまえ、教職の使命と責任及び教職の意義を正しく理解し確認する。
- ・子ども・同僚・保護者等との対人関係能力を身につけ、学校が抱える諸問題を適切に解決する力を獲得する。
- ・学級経営の理念と方法に関する理解と技術を習得する。
- ・教科の適切な指導法（教科等の知識や技能など）を身につける。
- ・教育実習をはじめとする教職課程で学んだことを振り返り、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補う。

【概要】 地域の公立中学校管理職から「教職の現状と課題」「これからの教員にとって必要な資質」について学ぶとともに、教育基本法をふまえ、教育実習を含めて教職課程で学んだことを報告、討論する。また「ソーシャルスキルの技法と実践」では学校が保護者や、

大学を含む地域と連携して地域運営型学校（コミュニティスクール）を積極的に運営している事例を紹介し、ロールプレイを通して地域連携のあり方を体験的に学ぶ。「学級経営のあり方を振り返る」では学校目標や学級目標、学年目標等をふまえて学級経営のあり方を改めて問い直す。「教科の指導法を振り返る」では、教職課程の履修や教育実習を通して体得した教科の指導法を、模擬授業を通して検証する。報告・討論・レポート作成を中心とする演習で、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補う。